

大阪・庄内でオーケストラ！？哲学で作曲！？

音楽創作プロジェクト「哲学カフェオーケストラ庄内」を開催

～ 市民と音楽家の新しい関係から、豊かな音楽が生まれる ～

日本センチュリー交響楽団では豊中市、しょうない REK、大阪大学 CSCD（コミュニケーションデザイン・センター）と共同で豊中市庄内において「哲学カフェオーケストラ庄内」と題した音楽創作プロジェクトを開催します。2014年12月から一般の参加者が当団コミュニティプログラムディレクター野村誠と楽団員によるワークショップにて音楽を創作しており、3月14日の「しょうない音楽祭」にてその作品を発表します。

日本センチュリー交響楽団と豊中市は2012年度より「音楽あふれるまちの推進に関する協定」を結び「豊中まちなかクラシック」と題して、市内の寺院や教会、歴史的な建造物でコンサートを開催するなど身近な場所で多くの方に音楽を届けて参りました。今回はそこから前進し、一般の方と音楽家が交流し、これまでの「演奏者・聴衆」「講師・生徒」とは違う新しい関係を育みます。ここでは全員が作曲家でありオーケストラのメンバーです。この活動を通して庄内を音楽創造の街として、また日常にオーケストラがいる街として、より魅力的な場所にしたいと考えています。

分野を超えた出合いが新しい音楽を生む

毎回のワークショップは大阪大学 CSCD 特任教授の西川勝さんがナビゲートする「哲学カフェ」から始まります。参加者も音楽家も「まんが」「おやつ」「遠い国」などのテーマについて意見交換をし、お互いを知りながらアイデアを共有していきます。その「哲学カフェ」を受けディレクター野村誠の進行のもと、音楽の能力や経験を越えて、それぞれの「やってみたい」「面白い」「表現したい」を実現するために全員で音楽を創作します。また庄内で活動する、しょうない REK が参加者の募集の一端を担い、地域の様子、課題を伝えることで、より地域に密着したプロジェクトとなっています。新たなパートナーシップがこれまでにない新たな音楽を生みます。

※哲学カフェとは…マルク・ソーテという哲学者が1992年にフランスで始めた試み。誰にでも開かれた場所で、あるテーマについて、そこに集まった人たちが身分や立場に関係なく対話する。

プロジェクト概要

■プレコンサート（まちに紡ぐ音楽）

2014年10/6（月）18：30～20：00

会場：MITA ホール（阪急宝塚線・庄内駅西口すぐ。しま善ビル4階）

■ワークショップ

2014年12/11（木）

2015年1/8（木）、2/13（金）、2/27（金）、3/6（金）、3/13（金）

時間 18:30～20:30 会場：MITA ホール

※プレコンサート、ワークショップの一部は既に開催済みです。

■発表

しょうない音楽祭にて演奏

3/14（土）13:00 開演

会場：サンパティオホール

（阪急宝塚線・庄内駅西口2分）

※哲学カフェオーケストラは14:30より演奏予定

主催：豊中市、共催：（公財）日本センチュリー交響楽団、協力：しょうない REK、大阪大学

この件に関するお問合わせ先

公益財団法人日本センチュリー交響楽団 担当 柿塚（カキツカ）

電話 06-6868-3030 FAX 06-6866-9020 Email kakitsukat@century-orchestra.jp

参考資料【プロフィール】

日本センチュリー交響楽団 （にほんせんちゅりーこうきょうがくだん）

1989年に活動を開始。ザ・シンフォニーホールやいずみホールでの定期演奏会、東京をはじめさまざまな地域での特別演奏会、アンサンブル活動、「タッチ・ジ・オーケストラ（青少年のためのオーケストラ体感コンサート）」、特別支援学校コンサート、豊中市との協定に基づく「豊中まちなかクラシック」などの多彩な演奏会活動のほか、地域コミュニティとのプロジェクトの推進、ユースオーケストラの運営など教育プログラムにも力を入れている。2014年4月にはコミュニティプログラムディレクターに作曲家の野村誠が就任し、最初のプロジェクトとしてNPO スマイルスタイルと共同で就業支援を必要とする若者とともに音楽創作プロジェクト「The Work」を開始。同年7月にJR大阪駅で発表し大きな反響を得た。



日本センチュリー交響楽団 ©s.yamamoto



野村 誠

プログラムディレクター 野村 誠 （のむら まこと）

1968年生まれ。京都大学理学部卒。作曲家として、オーケストラ、ガムラン、和楽器、ロックバンド、日用品、瓦など、様々な楽器のために作曲し、世界20カ国で作品を発表。また、お年寄りから、子どもまで、プロ/アマチュア問わず、幅広く共同作曲を実践。「取手アートプロジェクト2006」プロデューサー、日英共同の「ホエールトーン・オペラ」監修、「千住だじゃれ音楽祭」音楽監督など、国内外で数多くのコミュニティプロジェクトを成功させる。2006年度、NHK教育テレビで、子ども向け音楽番組「あいのて」を番組監修し、自身も赤のあいのてさんとしてレギュラー出演。第1回アサヒビール芸術賞など受賞多数。CD、著書多数。これまでに、京都女子大、京都造形芸大、大阪音大、東京藝大、慶応大、早稲田大、ハダスフィールド大（イギリス）、インドネシア国立芸大、シラパコーン大（タイ）などで講師を務める。2014年4月、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクターに就任。

西川 勝 （にしかわ まさる）

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任教授

2003年大阪大学大学院文学研究科臨床哲学博士前期課程修了。精神科病棟での見習い看護師を皮切りに、人工血液透析、老人介護施設と職場を移しつつ、二十数年にわたって臨床の現場での経験を積む。その一方で、関西大学の二部、大阪大学大学院文学研究科にて哲学を学び、看護の実際に即してケアのあり方をめぐる哲学的考察をおこなう。現在は「認知症ケア」に関わるコミュニケーションの研究・実践を進行中。

しょうない REK （しょうないれつく）

R=Recycle(リサイクル)、E=Event(イベント)、K=瓦版を合合わせた造語です。豊中市の「市民公益活動推進条例」に基づき、市民と市が協働して2004年に立ち上げました。豊中市立庄内図書館を拠点に市立図書館のリサイクル本の販売や庄内地域での様々な活動を通じて地域情報の収集・発信を継続的に行い、庄内地域が今まで以上に住みやすい活気ある楽しく安全な町になるように地域のみなさまとともに活動しています。